

地域医療の現場から ● 76



セコメディック病院 脳神経外科

中崎 将

年をとると足元がおぼつかなくなり、転んで頭を怪我することも多くなります。これまでも頭部打撲で来院される高齢者の方はおられました。最近では受傷の状況や受傷後の経過が以前とは変わってきているように感じています。

受傷の状況としては、以前は若い方と大差なかった受傷状況が、今では例えば、一人暮らしの高齢の方で受傷後ずいぶん

たつてから来院したり、何度も転倒して繰り返し頭をぶつけていたり、軽度認知症で何時どのように受傷したかわからなかつたりと高齢化社会の影響が見て取れます。また受傷後の経過としては、ある種のお薬の影響が大き

んだところが、そのお薬の効果のために血が止まりにくくなり、大出血になってしまうことがあります。頭部打撲の場合は軽い脳挫傷です。ただはずの怪我が、大出血を伴う脳挫傷となり、治療経過が長期に

高齢化医療だけでは救えない

いと感じています。

最近、脳梗塞や心筋梗塞の予防に抗血小板薬や抗凝固薬を飲んでいて患者さんが増えてきます。これらの薬剤は確かに効果がありますが、一方で飲んでいなければ少量の出血です

なったり、出血が大きすぎて開頭手術が必要になったり、時に治療困難なほど重篤な状態に陥つたりします。

全国的な統計をみても以前と比べ、高齢者の外傷が原因の開頭手術は増加しています。

医療が発達すれば、人は

長寿となり、長寿となれば病気は増え、増えた病気を治療しようとするれば、お薬は多くなり、そのお薬は時に病気を引き起こします。医療の発達だけでは高齢化社会を救うことは困難です。高齢者の頭部外傷の予防は結局、医療ではなく、周囲の人々の手に委ねられる以外にないでしょう。高齢者が日常を孤独で過ごすことのない社会の実現を願っています。

医療講演会

「認知症について」

12月1日(月) 14時/イオンモール千葉ニュータウン/講師：脳神経外科 中崎 将 医師/無料/要予約/Tel 457-9900